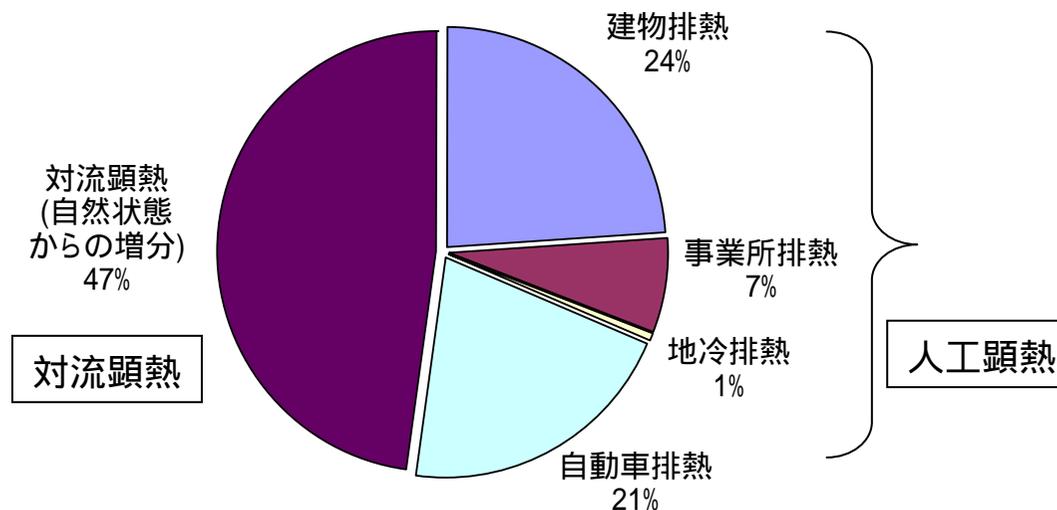
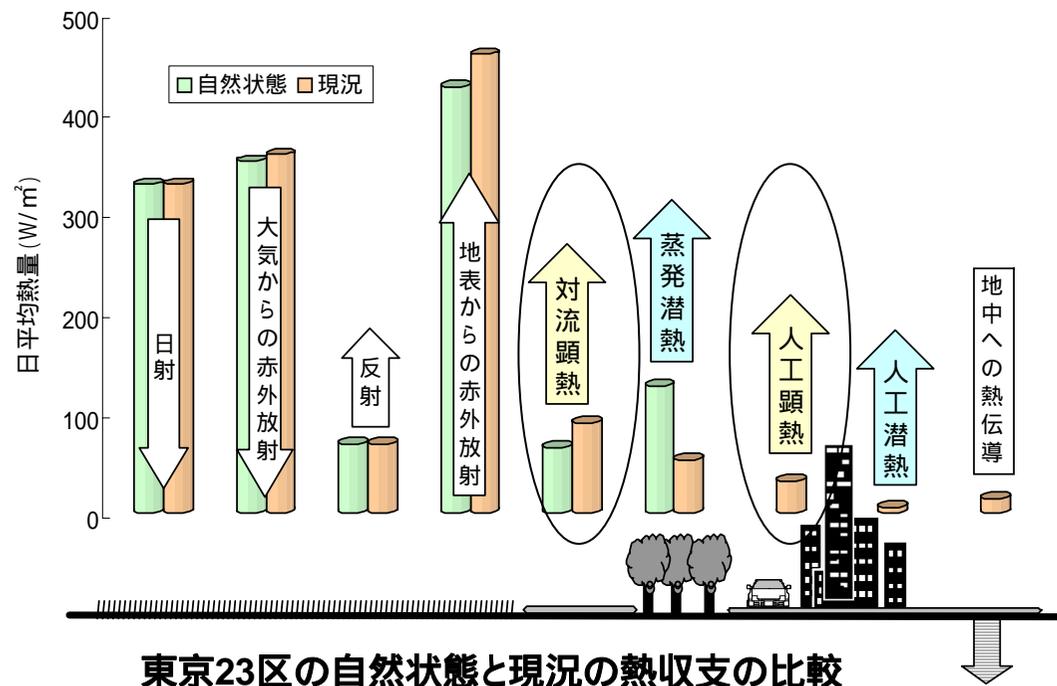


## 参考資料 ヒートアイランドの要因

仮に陸域がすべて自然の地表面で、その約半分が樹木に覆われている場合を「自然状態」としてシミュレートし、その熱収支を試算。

この結果によると、東京23区平均の「自然状態」と「現況」の差は、地表面の人工化による対流顕熱の増加(37%増(65.9 90.5W/m<sup>2</sup>))、緑や水面の減少による蒸発潜熱の減少(58%減(126.6 53.2W/m<sup>2</sup>))、人工排熱(顕熱)の追加(0 26.9W/m<sup>2</sup>)となって表されている。

大気を直接暖める顕熱に注目すると、対流顕熱の増分(24.6W / m<sup>2</sup>)が地表面の人工化による影響、人工顕熱の増加分(26.9W / m<sup>2</sup>)がエネルギー消費による影響と考えられ(他にも要素はあるがここでは簡単にするため2つを取り上げた)、それぞれ約50%程度の影響を及ぼしていると推察される。



東京23区 日平均顕熱状況(出典:環境省)